

# 平成〇年度 学級経営計画具体案

〇〇市立▽▽小学校 6年〇組

担任：梶田 崇晴

## 学校教育目標

夢をもち、瞳かがやく〇〇っ子の育成

### ◇めざす子ども像◇

- ・たくましい元気な子  
…明るい挨拶・節度のある行動・運動に親しむ・安全に気をつける
- ・思いやりのあるやさしい子  
…みんなのことを考え、やさしい言動がとれる・友だちのよさを見つける・生命を大切にする
- ・一生懸命がんばる子  
…めあてをもち一生懸命取り組む・チャイムの合図や静かな廊下歩行・黙って掃除
- ・自分から進んで学ぶ子  
…自ら問題に取り組み、解決する・人の話をよく聞き自分の考えを発表する  
・基礎基本を身につける

## 学年目標

- ・たくましい元気な子…進んで気持ちのいい挨拶・たくましい心と健康な体
- ・思いやりのあるやさしい子…友だちのよさを見つけ、認め合い、励まし合う
- ・一生懸命がんばる子…高学年としての自覚・めあてをもち一生懸命に取り組む
- ・自分から進んで学ぶ子…自分で課題を見つけ、進んで考え解決する

## 学級の実態

…これまでの生活の様子から

### <児童数>

- ・男子19名 ・女子21名 ・計40名

### <生活面から>

- ・学級の雰囲気 ・子どもたちの行動の特徴 ・当番や係活動での実態
- ・リーダー的な役割をする子の有無 ・休み時間の様子 など

### <学習面から>

- ・授業中の態度 ・発言の様子 ・家庭学習の実態
- ・学習に対する意欲（教科ごとに特徴があればそれも書く）
- ・教科学習への取り組みの様子

### <健康・運動面から>

- ・運動能力の特徴 ・気をつけなければならない病気の有無
- ・体格の実態 ・スポーツ少年団等への所属

### <生徒指導面から>

- ・特筆すべき特徴 ・家庭環境 ・交友関係など

## 学級経営方針

### \* 明るく温かく、活力あふれる学級づくり

- ・指示待ち型の風土を排除し、子ども自らが自分たちの学級の問題に取り組んでいけるような場の設定を行っていく。
- ・学級及び個人の実態を把握することに努め、特別活動・道徳・日常の活動を通して、好ましい人間関係をつくる。
- ・認め合う場を多く設定し、一人ひとりが平川小のリーダーとしての自覚を持てるよ

うな指導を行っていく。

- ・学校だけでなく、家庭生活・校外生活についても情報を求め、連絡を密にして、いろいろな面からの児童理解を図り、心豊かな子どもの育成に努める。

**\*一人ひとりが主体的に取り組み、互いに高め合う授業づくり**

- ・基礎的、基本的な学力を身につけさせるための方略を工夫する。
- ・学び方を育てることをメインとした学習指導を行っていくとともに、学び合う姿勢を大事にしていく。
- ・豊かな表現力を育成するために様々な場を使っての指導を行う。

◇めざす子ども像◇

- ◎課題意識を持って、進んで学習に取り組む子ども
- ◎自分の学習課題や生活課題に気づき、自分の力で考える子ども
- ◎自分の考えを持ち、その思いを表現できる子ども
- ◎いつも前向きの姿勢で新しい考えを作り出せる子ども
- ◎よりよい自分、よりよい学級をめざして積極的に取り組む子ども
- ◎高学年としての自覚を持ち、お互いのよさを認め合い、相手の立場に立って人に接することができる子ども

**学級経営の具体的方策**

**1 自分から進んで学ぶ子**

目標：一人ひとりが自分で考え、友だちと学び合う学習づくり

**努力点**

- 子どもが持つ「学びたい」という思いや願いを大切にし、わかる授業を工夫し、一人ひとりが学習の喜びと充実感を味わえるようにする。
- 一人ひとりがめあてと自分の考えをもって学習に参加し、集中して考え、学ぶ力を身に付けるようにする。
- 自主学習を奨励し、進んで学習に取り組む意欲と学び方を育てる。
- 小集団学習を取り入れ、コミュニケーション力の育成に努める。
- 基礎的な学力の育成をめざした指導を行う。

**具体的方策**

- ① 主体的に学習に取り組む力の育てるための授業づくりを図る。
  - ・意欲の高まりを重視した授業  
課題意識を高めるために、子どもたちの好奇心をくすぐる教材化と教材提示の工夫に努めたい。例えば、歴史学習では「食」に視点を当てた教材開発などを行ったり、なりきり活動を取り入れた学習方法を導入したりする。  
※歴史学習が毎年ずるずると長引いていた。そこで、本年度は焦点を絞り、メリハリのきいた授業づくりに挑戦してみよう。
  - ・学び方（問題解決力）の育成をめざした授業  
まずは過程を重視したい。課題づくりから、自分の考えを持ち、課題を解決していく過程を学習指導の中で丁寧に指導していきたい。また、学び方の育成をねらいとした取り立て指導や自学での取り組みも重視したい。
  - ・自己有用感・効力感を高める授業  
ふりかえり活動（分かる・うまくなる・自信を持つ・達成する・支え合う・認め合う・役立つ）で「やればできる体験」を積み上げていく（とにかくほめる）。
  - ・次時の学習へとつながる授業

オープンエンドの授業づくりに努めると同時に、家庭学習に生かせるヒントの提示を行いたい。

自主学習に生かすことのできるヒント集を作成する。

② 思考力・表現力の充実を図る。

- ・子どもの課題意識を大切にして、「なぜ？」にこだわる授業をめざす。
- ・一人ひとりに自分の考えを持たせるための工夫（時間の確保/ノート指導/小集団学習など）
- ・認識の思考パターンを教える。…自学
- ・自己表現の場（めあて、考え、まとめの表現）として書く活動を充実させる。
  - 授業における書く活動
  - ショート作文における書く活動（表現力の系統を重視して）
- ・まちがいを生かす授業づくりに努める。

③ 基礎・基本の充実を図る。

- ・学習内容の基礎・基本を徹底するために、教材研究の充実・指導の重点化・系統性の重視をする。
- ・算数の学習に力を入れる…算数に自信を持っていない子どもには、徹底して個別的に当たる。必要に応じて放課後の課外指導も行いたい。
- ・学び方の基礎・基本（資質や能力）を話す力・書く力・考える力・調べる力の4つと考え、その指導に当たる。

\* 話す力（話し合う力）

- ☆スピーチの継続的指導…思いきり座談会で、自由に話せる雰囲気をつくり、そこから朝の一分間スピーチへ
- ☆話合い活動の充実…自分たちの問題は自分たちで解決することを大事にすることから、学級活動における話合いを大事にしたい。必要に応じて、司会のマニュアルカード作成にも取り組んでいきたい。とにかく、多くの話合いを経験させることである。
- ☆問う力を身につけさせる指導…相手の考えを聞き、納得のいかないことについてはほとんど質問できるようにさせたい。問うことこそ、問題解決力のスタートだと考える。

\* 書く力（書くことは考えること）

- ☆抵抗感の除去・・・多作化／生活化／暗示化
- ☆表現意欲を高める・・・子どもが喜んで書く作文題材の開発と楽しい短作文の実施（ショート作文）
- ☆表現技能を高める・・・語彙量を増やす／語意力を高める指導や言語事項の指導の充実を図る。また、心のメモのポイント制にも取り組んでみたい。

\* 考える力

- ☆プロセス重視の指導に心がける。（考える時間の位置付け）
- ☆考える楽しさを味わわせる。
- ☆家庭学習における自主学習の取り組み
  - メニューを与え、価値ある取り組みができるようにする。
- ☆分析的に見る訓練…自学ノートでの練習
- ☆批判的に聞き、問う力を鍛える。

\* 調べる力

- ☆課題解決型の授業の工夫（社会科において）
- ☆資料活用能力を鍛える。
- ☆発見する力／見通す力／観察する力／比較検討する力／関係づける力、これ

らを自主学習のテーマとして設定していく。

④ 地域への発信をめざした総合的な学習への取り組み

- ・「平和」「地域」をテーマに、総合的な学習を行う。
- ・問題解決力の育成をメイン課題として取り組む。
- ・育てる力を明確にし、教科指導と関連を持たせながら取り組んでいく。

(一学期の取り組み)

\*全員が参加でき、更にわかる喜びを味わわせることができる学習指導の工夫をする。

- ・自己表現の場を設定する。
- ・学習は楽しいものだと感じさせる工夫をする。
- ・自主学習の習慣をつけさせる。

## 2 一生懸命がんばる子・たくましい元気な子

目標：最上級生としての自覚を持ったよりよい生活づくり

### 努力点

○上級生としての立場から、学校生活におけるリーダーシップを取りながら集団の維持・向上に役立つ喜びを見いだす学級集団づくりをめざす。

○ルールの大切さを知り、自らそれを守ろうとする態度の育成をめざす。

### 具体的方策

① 学級目標「ハッピー・オンリー・ワン」を生かす。

『協力・全力・ぶち楽しい』をめざして

※子どもたちが考えた学級目標である。これまでの活動をふりかえって、「友だちと協力し合って自分たちでやりとげること」「悔いの残らないように全力を尽くすこと」「自分たちの力で最大限の楽しさを味わうこと」の3つが弱かったという。そこで、これを学級づくりの中心に据え、めあてを持ってがんばることを推奨する。

② 一人ひとりの向上心を高める。

- ・努力することの大切さを常に説き、ベストを尽くすことに価値を見出させる。
- ・学級として取り組むめあて、個人で取り組むめあてを決め、一人ひとりが努力できるように支えていく。

→めあて表の実施 学級名人の認定

- ・成功体験、役割体験、貢献体験の3つの体験を、いろいろな場で多くの子どもたちに味わせたい。特にいろいろな面で自信を持ってない子どもに当たりたい。

③ 乗り越える壁を設定し、活動の楽しさを味わわせる。

- ・自主的なイベント活動では、自分たちで乗り越えられる壁を設定し、それに向かって努力することのすばらしさを味わわせる。
- ・壁を乗り越えたときに感じるものが真の楽しさ（満足感）であることを実感させるよう支援する。

④ 自らの生活をよりよくすることをねらいとした特別活動の授業

- ・話し合い活動を重視し、自分たちで解決する経験を多く積ませる。
- ・子どもたちが主体的に学級運営に関われるような組織づくりを行う。

→オンリーワン実行委員会制度 係活動

⑤ 人とのかかわり方を知るコミュニケーションスキルの実践に取り組む。

- ・どのようなかかわり方が人間関係を友好にするかを考えさせるとともに、コミュニケーションスキルについてPAやエンカウンター技法を使って指導を行う。

(一学期の取り組み)

- \* 学級・学校の一員としての所属感を体験させ、規律ある生活態度を身につけさせる。
  - ・ 全校的視野にたった役割の自覚…委員会、なかよし班活動など
  - ・ 学級内における仲間づくり…人の価値とは、グループ活動
  - ・ 自主活動を奨励し、活動の継続化を図る…係活動の奨励、実行委員会の説明

### 3 思いやりのあるやさしい子

目標：友だちと支え合いながら、一人ひとりがよりよく生きる集団づくり

#### 努力点

- 一人ひとりのよさの発掘とそれを広げるための工夫をする。
- お互いに認め合える人間関係づくりに努める。
- 協力し合って創り上げる活動を仕組み、ともに支え合うすばらしさを味わわせる。

#### 具体的方策

- ① 自らの生活を向上させる意欲を持った学級集団を作るために、十分な児童理解に努める。

##### 《児童理解について》

その基本は、子ども一人ひとりを丸ごと認めることだと考える。共感し、受容することである。子どもたちにはひとりの人間として接していきたい。特に先入観に支配された見方だけは避けていこう。そこに子どもと教師の人間関係をつくるポイントがあるように思う。また、子どもの情報を常に収集するように努めたい。情報源を「心のメモ」「子どもたちの遊び」「子どもとの語り合い」に置く。

- ② 子ども一人ひとりのよさを認め、広げる努力を行う。
  - ・ 学級目標に照らし合わせて、めざす姿を明確にする。→終わりの会のプログラムに組み込む。
  - ・ 自学ノートや生活一般から長所の発見に努める。→よさの自覚をめざす。
  - ・ 見つけたよさをどのように残していくか、子どもたちと話し合いで決めたい。
- ③ 認め合い、励まし合うことを基盤において、明るい雰囲気の中で学級づくりを行う。
  - ・ 誉められることを嫌がる子はいないはずである。小さいことでも誉めていくようにしたい。教師の姿勢が子どもたちに反映することを願う。
  - ・ 友だちの意見を尊重すること、励まし合って伸ばし合うことを推奨したい。
- ④ 固定化された人間関係を崩していく。そして、人間関係づくりのよさを味わわせる。
  - ・ 人間の価値とは何かについて、様々な機会に語り掛けていきたい。そして、人の見方を広げていく。
  - ・ グループエンカウンターやPAの技法を取り入れたゲームを用い、いろいろな友だちとかかわり合うよさを味わわせる。
  - ・ リーダーシップとフォロアーシップを体験させる。
  - ・ 子どもたち一人ひとりのよさを広げていくことも、このことに通じる。
- ⑤ 集団の発達過程に応じた集団づくりに取り組む（年間の見通し）。
  - < 1 学期 > 集団意識の高まり・・・みんなで出来るイベントを多数実施／必要に応じて教師も提案／ミニ集会の実施
  - < 2 学期 > 一人ひとりの存在感・・・一人一役／学級のため、みんなのために出来ること／自己申告制（いろいろな場面において）／一人ひとりがチャンピオン
  - < 3 学期 > 学級文化の創造・・・学級の高まり、一人ひとりの高まりを意識づけ／卒業に向けた取り組み

- ⑥ 「よさ」をキーワードとした道徳授業の実践に取り組む。
- ・人の生き様を教材化したい…新聞記事の利用、保護者への協力依頼
  - ・「人権」にポイントをしぼった授業づくり
  - ・価値の主體的自覚（一歩立ち止まる指導）と価値の内面的自覚（役割演技などで体験的に自覚させる）を促す。

（一学期の取り組み）

- \*一人ひとりのよさの自覚を促し、お互いが認め合える人間関係づくりに取り組む。
  - ・一人ひとりのよさを生かした活動づくり
  - ・みんなのできるイベント活動の実施
  - ・支え合うことの大切さを考えさせる授業づくり

## 4 その他の取り組み

- ① 特に配慮を要する児童への指導について
- \*個別にかかわり学習に対する自信を持たせることが必要であろう。歴史の学習を好む子が多いので、社会科の時間に活躍できる場を設定できるようにしたい。
  - \*仲間に入れない子は、担任と話すことで落ち着くところがある。休み時間にはできるだけかかわる時間を持つようにし、その際、友だちとかかわれるように仕組んでいきたい。
  - \*友だちの中でわがままを出す子には、甘えることには限度があることを指導したい。賢い子なので、話すことによって理解させることが可能であろうと考える。また、突発的に行動することがあるので、そのたびによい面に着目させるようにしたい。
  - \*生徒指導上問題のある子についてはそれぞれのよさを生かした活躍の場を設定し、それを通して正しい活動とは何かを考えさせていくようにしたい。
- ② ユニット学習の考えを生かしたショート学習
- \*遊び感覚で取り組めるものを行う。（ねらいを明確にして）
    - ・言語事項の学習／調べ学習の基礎／単なる遊びも→何でもチャンピオンへ→内容は、自己申告制へ移行していきたい。
- ③ 心のメモ
- ・表現力の定着をねらいにして（ミニテーマの設定）
  - ・その日にあったことを自分との関わりで書く（思いの発露）
  - ・評価は、表現内容および字の丁寧さ →めざせ100ポイント！
  - ・児童理解に生かしていくと同時に、ツーウェイ通信として、相互理解の一つとする。
- ④ パワーアップノート（自主学習）
- ・1日2ページを基本とする。
  - ・内容は自己申告制を基盤とするが、定着化をはかる間、課題を与える。
    - 予習・復習めにゆーとワクワク学習めにゆー
- ⑤ 学級通信「ハッピー・オンリー・ワン」を使って家庭との連携を図る。
- ・不定期便として発行
  - ・内容としては、学習の様子（授業中のできごと／学習内容について）・生活の様子（子どものよさを中心に）・教師の教育観・学級経営の実際を書いていく。
  - ・できれば「親の意見」を取り上げられる通信にしたい（月毎のテーマを設定して）